

参考 作品



「精」油彩、キャンバス 40×40cm

人の内面と
人がまとう空気を描く

複雑にからみあう内面と、そのさらに深くに存在するシンプルな生きるエネルギーを描写したい、それが私の人物表現の一貫したコンセプトです。

その中でも頭部は、顔の表情や、髪の流れ、脳にうずまく思考

や感覚など人の内面や個性を外に発信する重要な部分だと考えています。

私の人物表現の流れは、「内面の描写↓立体の描写↓表面の装飾・着彩↓演出」。身体の内側を流れる血液や体温そしてみなぎる力を描写するところから始まり、そこに肉体をのせ、表層の装飾を

して空間を彩ります。空間にたたくむ立体を形作った上で、そのモデルがまとう「空気感」を演出するイメージです。

そのために、細部表現は最後までほぼしません。目鼻やヘアスタイルなど細かいところを描いて、モデルに似せることへの満足や錯覚を覚えることのないよう、立体や空間づくりをなんども描き重ねます。頭部においては胴にどのようについているか、身体の軸と視線の方向をとくに意識し、体全体とのバランスに注意します。そして最後はまつ毛一本の表情にも感情をこめます。

対象物を描くことは、それが存在する空間そのものを描くこと。そう解釈し、対象物を取りまく相対的なものの見方や、画面全体の空気感を表現することが対象物をより印象的に描くことにつながるポイントと日々実感しています。

大切なのは、ものをとらえる目と、そこに加える心のエッセンス、それらがひとつになってはじめて

こがはら・いずみ 栃木県生まれ。2000年宇都宮大学教育学部美術科卒。00年栃木県芸術祭奨励賞受賞。04年～日展入選7回。03年～光風会在籍。現在無所属。

information 個展 (11月25日～12月1日・そごう横浜店、2015年4月11日～19日・渋谷 Bunkamura ギャラリー)



「自分の表現」ができるものと思っています。どちらが欠けても表現が成り立たない。そのために、描いて壊してまた描き起こす、これを最後まで何度も繰り返し、いろどりの層をつくりあげていくことが、私のプロセスであり人物表現の楽しみでもあります。